

Web 改訂版です。

黄色部分が修正後です。

2019年 オオルリ他夏鳥調査結果

(取りまとめ：粕谷和夫)

八王子市の鳥・オオルリの生息地である丘陵地や山間部の自然環境の動向を見守るため、1992年以來生息数調査を毎年行っている。また、オオルリの他にツツドリ、ホトトギス、クロツグミ、キビタキ、センダイムシクイ等の夏鳥の数もカウントした。カウントしたのは♂の羽数で、メスはカウント対象外である。

1. 調査場所

第1表に示す通り八王子市内の丘陵地、山間部の沢筋、谷筋の19区域で行った。踏査総延長は、2017年迄は111kmであったが、2018年以降は◎明王峠下(明王溪谷、クラ骨沢、ピロウ沢)が2km短縮され109kmになった。

2. 調査時期

4月下旬～7月上旬にそれぞれの区域で2～4回行った。

3. 調査参加会員数

第1表の通り、延べ120名(2018年125名)の会員が調査を行った。

(第1表)オオルリの調査場所別調査責任者、延参加者数(2019年)

調査区域	調査延長	調査責任者	延べ参加数
①上川(今熊山北沢、同南沢、金剛の滝)	3	玉木雅治	5
②加住南丘陵(谷地川源流部)	6	中村啓二	4
③川口丘陵(天合峰、釜の沢、滝の沢)	6	対中義雄	2
④美山(山入川奥、美山小学校奥、お屋敷川)	5	中村后子	8
⑤小津(下恩方辺名、小津川源流部奥)	7	清水盛通	5
⑥醍醐川上流(醍醐川上流部、ににく沢)	6	佐藤哲郎	4
⑦醍醐川下流(醍醐川下流部、盆堀林道)	4	木澤隆雄	2
⑧和田峠下(くぬぎ沢、和田峠谷)	3	古山隆	2
⑨明王峠下(明王溪谷、クラ骨沢、ピロウ沢)	6	門口一雄	3
⑩力石周辺(力石沢、南土代沢、駒木野沢他)	8.5	山崎悠一	6
⑪板当・滝沢林道	9	丸山二三夫	6
⑫元八王子(御主殿の滝奥、八王子城跡奥)	4	門倉美登利	35
⑬裏高尾(小下沢林道関場峠迄)	5	中山尊人	7
⑭小仏城山下(日影沢城山頂上迄、行の沢)	7.5	柚木育子	2
⑮高尾山1(6号路、3号路、琵琶滝下山コース)	8	玉木雅治	11
⑯高尾山2(小仏川下流、蛇滝コース、4・5・1号路)	5	粕谷和夫	8
⑰大垂水峠下(案内川上流から一丁平方面)	3	加藤岸男	4
⑱表高尾(中沢川、入沢川、榎窪川)	10	浜野建男	4
⑲初沢川・東高尾尾根	3	角田幸男	2
計	109		120

4. 結果

結果は第2表の通りであり、オオルリは18コース(沢筋、谷筋)で出現し、合計76羽のみを確認した。2018年と比べると8羽の減少となった。沢別では、本年も⑤小津(下恩方辺名、小津川源流部奥)が最も多く、続いて⑬裏高尾(小下沢林道関場峠迄)、⑱表高尾(中沢川、入沢川、榎窪川)、⑮高尾山1(6号路、3号路、琵琶滝下山コース)の順であった。

(第2表) 沢別・年次別のオオルリのみ出現数(八王子山間部、丘陵地)【2000年以降分】

場所	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
①上川(今熊山北沢、同南沢、金剛の滝)	1	2	2	2	2	2	1	2	3	3	1	2	1	2	0	0	3	1	4	3
②加住南丘陵(谷地川源流部)	3	1	0	0	1	1	1	2	2	2	1	0	0	0	0	0	1	1	2	
③川口丘陵(天合峰、釜の沢、滝の沢)	0	0	1	0	2	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	2	1	1	1
④美山(山入川奥、美山小学校奥、お屋敷川)	0	0	0	0	0	1	1	1	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1
⑤小津(下恩方辺名、小津川源流部奥)	4	13	11	8	5	8	11	12	11	6	9	8	9	8	13	12	17	10	13	10
⑥醍醐川上流(醍醐川上流部、ににく沢)	8	5	8	7	4	4	6	6	4	6	3	5	4	6	2	8	5	4	3	4
⑦醍醐川下流(醍醐川下流部、盆堀林道)	2	2	4	3	4	3	3	4	4	5	3	3	4	4	3	4	2	2	3	4
⑧和田峠下(くぬぎ沢、和田峠谷)	2	2	2	2	3	4	4	4	5	2	3	1	1	1	3	4	3	3	2	4
⑨明王峠下(明王溪谷、クラ骨沢、ピロウ沢)	5	3	3	4	4	6	6	5	7	4	5	3	3	5	7	6	7	4	4	5
⑩カ石周辺(カ石沢、南土代沢、駒木野沢他)	1	6	6	4	6	12	13	9	14	9	8	11	8	6	18	8	8	5	9	5
⑪板当・滝沢林道	8	4	8	5	5	7	7	7	11	10	8	5	5	7	7	9	5	4	6	3
⑫元八王子(御主殿の滝奥、八王子城跡奥)	1	1	1	2	4	5	3	5	5	1	4	1	2	2	4	2	2	2	4	2
⑬裏高尾(小下沢林道開場峠迄)	6	2	2	6	3	4	4	3	4	4	3	5	4	4	2	4	5	3	8	8
⑭小仏城山下(日影沢城山頂上迄、行の沢)	3	5	3	3	3	5	4	7	5	11	8	6	4	4	5	4	4	2	2	3
⑮高尾山1(6号路、3号路、琵琶滝下山コース)	3	3	3	7	7	4	6	7	6	9	8	9	2	9	4	4	9	7	3	6
⑯高尾山2(小仏川下流、蛇滝コース、4・5・1号路)	4	6	4	4	5	7	6	5	4	2	8	2	3	4	4	2	4	2	5	3
⑰大垂水峠下(案内川上流から一丁方面)	2	2	1	1	2	2	5	6	16	8	5	2	2	5	3	5	4	5	6	5
⑱表高尾(中沢川、入沢川、榎窪川)	3	2	4	5	4	6	7	9	5	5	4	5	3	11	5	3	8	6	6	7
⑲初沢川・東高尾尾根	1	0	1	1	1	0	1	0	3	2	2	2	1	0	3	3	6	1	2	2
計	57	59	64	64	65	81	90	94	111	91	84	73	58	79	84	79	96	64	84	76

オオルリのカウントと同時に実施した夏鳥他全野鳥の調査結果は第3表(次ページ)の通りであり、キビタキの増加傾向が本年も続いた。

本年は通過を含む夏鳥が 19 種(ホトトギス、ツツドリ、カッコウ、サンコウチョウ、ツバメ、イワツバメ、ヤブサメ、センダイムシクイ、クロツグミ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、ミソゴイ、ヨタカ、コチドリ、ハチクマ、アオバズク、サンショウクイ、エゾムシクイ)、留鳥他 43 種(冬鳥を含む)、計 62 種が出現した。留鳥のアオバトは 12 コースで観察された。また、クマタカが⑧和田峠下で観察された。

ミソゴイ、ヨタカ、フクロウ、アオバズク、サンショウクイ、エゾムシクイ等の注目種が観察されたことは特筆される。主な夏鳥等の出現数の経年変化をグラフで示した。(最終ページ)

以下は各担当者の特記事項である。

- ① 玉木雅治：サンコウチョウは今熊神社東の森に出現、声だけ確認。
- ② 中村啓二：コチドリは 4/28 成鳥 2 羽、GMG 八王子ゴルフ場内駐車場隣接の草地。エゾムシクイは 4/28 2 羽 戸吹町、とぶき育成園の西の森の中と農家奥の谷戸でそれぞれ 1 羽ずつ囀りを聞く。
- ⑤ 清水盛通：ハチクマは旋回上昇し東に移動(時期的に繁殖活動の可能性あり)。サンショウクイは鳴き声からはリュウキュウサンショウクイと思われる(模様の確認はできず)キビタキが多く場所で観察される(個体数を増やしている)。フクロウは複数個所で鳴き声が聞こえ、夜間の餌獲りの痕跡が認められる。ミソサザイ、クロツグミ、センダイムシクイが徐々に復活している。ミソゴイ、ツツドリは減少している。
- ⑥ 佐藤哲郎：コサメビタキは「ににく沢出会い」から 5 分ほど林道を登った地点で、樹上に 1 羽視認。やや離れた樹上にも 1 羽。コース中ほどの沢側の樹間に、移動する 1 羽を見たが、こちらは同定がやや不確か。ニホンシカ 1 頭：フォト鳥信に報告済み
- ⑦ 木澤隆雄：関場バス停の溪流でカワガラス。
- ⑪ 中山尊人：毎年、道路脇の水たまりで観察出来たオタマジャクシが雨不足で水たまりがなく、観察出来なかった。植林記念碑から関場峠迄の道は、昨年の大雨の影響からか川沿いのコンクリート製の側壁が何か所か崩れ、歩行に危険を感じました。
- ⑯ 粕谷和夫：高尾山の夏鳥はキビタキ一勝の様相、2019 は 20 羽を超え過去最高となった。

